

平成29年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成30年5月

遠野市（岩手県）

○計画期間：平成28年4月～平成33年3月（5年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成29年度終了時点（平成30年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成28年4月以降、認定基本計画に基づき、歴史・文化・風土・自然が息づく市民と観光客に愛され全ての世代が安心して楽しく回遊できるまちを目指し、①観光客が訪れる中心市街地②人々が行き交う中心市街地③生活が充実する中心市街地—の3つの基本方針を基に事業推進している。

平成29年9月に、中心市街地の賑わい創出へ向けた核施設として整備を進めた市役所本庁舎を供用開始した。日常的に利用しやすい施設とするため、従来使用していたショッピングセンターとの複合施設部分を引き続き窓口に活用。本庁舎には市民ホール、まちなか図書ルーム、フレキシブル執務スペースなど交流と市民活動の拠点として利用できる機能を設置した。本庁舎が市内各町からの人の流れを呼び、また町並みと調和する景観整備により周辺の不動産活用への意識付けになっているほか、空き店舗対策やソフト事業との連携により周辺空き店舗を活用した新規出店数が順調に推移している。

一方で中心市街地観光施設の入込は、東日本大震災以来の落ち込みを依然回復できていない。主要施設の入込は前年対比93.7%と微減し、また市内全体の観光客入込は上半期の観光シーズンで前年比99.7%と維持傾向にある。遠野まつり・さくらまつり・町家のひなまつりといった関連するイベント事業は天候に大きく左右され、前年比上半期120%・下半期76.6%の入込となった。

観光客数の減少による観光施設、イベントの集客数の減少は回復できていないが、商店街で空き店舗がリニューアルにより活用され、空き家活用によるイベントで各世代が集う場となっていることから、日常的な賑わい創出への期待がもたれる。

平成30年度は主要観光施設の機能強化と関係機関の連携事業の見直しを予定している。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（単位：
人）

中心市街地区域	平成27年度（計画期間開始前年度）	平成29年度（フォローアップ年度）
人口	8,001	7,759
人口増減数	△145	△111
社会増減数	△25	1
転入者数	118	97

※人口基準日：該当年度内の1月1日

※人口増減数・社会増減数・転入者数：該当年度内の1月1日までの1年間の変動数

2. 平成 29 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

遠野市と遠野市中心市街地活性化協議会は年1回開催する定例総会の開催により事業の進捗状況の情報共有を図るほか、協議会を構成する各団体から推薦されたメンバーで隔月開催するワーキンググループにおいて、商業、観光、市街地の景観について官民連携による意見交換を行った。構成団体からは、計画に搭載されているハード事業の全体的な機能調整によるまちなかの日常的な賑わいの創出、ソフト事業との連携強化及び新規起業家との連携など、計画の更なる推進について意見をいただいた。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
目標① まちなかの観光振興 (歴史・文化・風土・自然を生かしたまち)	中心市街地観光施設入込数 (人/年度)	64,726 (H26)	100,000 (H32)	46,331 (H29)	②	②
目標② まちなかの回遊性創出 (にぎわいあふれるまち)	中心市街地通行量 (人/日)	3,145 (H26)	4,262 (H32)	3,690 (H29)	③	②
目標③ まちなかの新規店舗の推進 (店舗が充実したまち)	中心市街地新規出店数 (件/年度)	7 (H24～ H26)	12 (H28～ H32)	8 (H28～ H29)	①	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「中心市街地観光施設入込数」については、東日本大震災以降の観光客の減少に伴い、引き続き市街地観光施設の入館者数の減少が顕著となっている。施設リニューアル効果は限定的であることから現状の取り組みだけでは目標値の達成は難しく、付随機能の強化やソフト事業との連携が必要と考える。

「中心市街地通行量」については、平成29年9月に市役所本庁舎が中心市街地のショッピングセンターに隣接して供用を開始したことにより通行量が増加した。今後は本庁舎の賑わいの中心としての機能強化による利用者の増とイベントの市街地開催により、回復傾向を堅持するための取組みが必要と考える。

「中心市街地新規出店数」については、平成 28 年 1 月の経済産業省の「遠野市創業支援計画」認定による「創業支援塾」の効果もあり、平成 29 年度は中心市街地への出店者が増加した。このことにより先行起業者の事例と本庁舎供用開始による不動産活用への動機づけが図られ、継続的な創業者支援から目標達成に向け順調に推移しているものと考えられる。

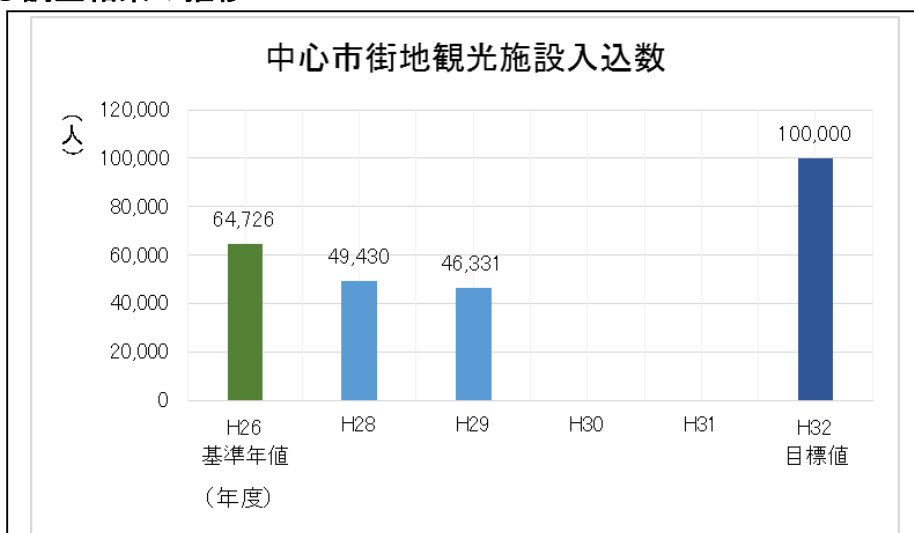
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「中心市街地通行量」については、すべての調査地区において通行量が増加していることから、全体的に回復傾向にあると評価しているが、要因が平成 29 年 9 月の市役所本庁舎供用開始とレンタサイクル事業の実績となっており、ハード整備の効果が一過性のものにならないよう引き続き取り組みが必要であると考え、②と評価した。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地観光施設入込数」※目標設定の考え方基本計画 P71～P75 参照

●調査結果の推移



年度	入込数 (人)
H26	(基準年値) 64,726
H28	49,430
H29	46,331
H30	—
H31	—
H32	(目標値) 100,000

※調査方法：市有観光 3 施設の年間入場者数を集計

※調査月：毎年度末

※調査主体：遠野市

※調査対象：遠野市立博物館、とおの物語の館、遠野城下町資料館

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. まちづくりポイントカードシステム導入事業（遠野すずらん振興協同組合）

事業完了時期	平成 28 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	中心市街地の小売店の大半が加入しているポイントカード「スキップカード」を中心市街地の回遊性を高めるツールとするため、多機能化及び公共・観光施設等との多事業連携を図る。
事業効果及び進捗状況	福祉部門における健康づくり事業との連携が先行実施され、今後事業実施に応用が期待できる。図書館利用、トレーニングルーム利用、消

	防団活動等の行政と連携したポイント付与やマイナンバーカードの機能利用検討に際して、組合独自で他自治体の事例について研修を行うなど検討を進めている。今後はカードの特長の重点について組合内で議論の集約を図っていく。
--	---

②. 観光 Wi-Fi 対応事業（遠野市）

事業完了時期	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	観光施設に Wi-Fi 機能を設け、観光客の利便性向上と観光客の増加につなげる。
事業効果及び進捗状況	市内主要観光施設や公共施設に無料インターネット利用ができる公衆無線 LAN のアクセスポイントを設置し、平成 29 年 4 月 29 日にサービスを開始。平成 29 年度は 5 か所に設置し、行政施設含め 24 施設に設置完了した。認証画面は、日本語、英語、中国語、韓国語に対応。

③. 三田屋プロジェクト（遠野みらい創りカレッジ関連事業）（遠野市）

事業完了時期	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	空き家となった町家「三田屋」の調査及び改修を地元高校生と大学との交流で行なう。企業連携による廃校舍活用「遠野みらい創りカレッジ」の関連事業として、国内外から人が集い学ぶ場として活用できるよう整備を進める。
事業効果及び進捗状況	遠野市の地域環境と歴史文化を体験学習するオフキャンパス活動の企画・運営とともに、建物敷地の保全運用に関する管理を実施。各団体のイベント会場・回遊型イベントの基点として利活用を進め、地域住民の活動拠点として定着し年間約 2,500 人の利用があるなど周辺のにぎわい創出に寄与した。また、活用状況を踏まえ、今後の利活用や整備内容について地域との意見交換会を行った。

●目標達成の見通し及び今後の対策

中心市街地活性化基本計画の目標としている指標達成に向け個別事業は概ね順調に進捗しているが、東日本大震災以降、市全体の観光客の減少が続いている。また、高速交通網の整備が進んでおり、市街地・周辺地の別なく今まで立ち寄りしていた観光施設等を通過されるストロー現象が起こる懸念がある。

指標の「中心市街地観光施設入込数」の目標達成に向けて、市内はもとより県内の観光・産業関係者と連携した総合的な誘客活動を図る必要がある。観光振興については市内の集客産業に携わっている団体で構成する「遠野市観光推進協議会」を設立し、役割分担しながら一体的に取り組む体制づくりを行っており、今後も首都圏や東北地区(仙台、盛岡等)において、魅力を発信する催事の定期的開催や商品開発に取り組んでいく。

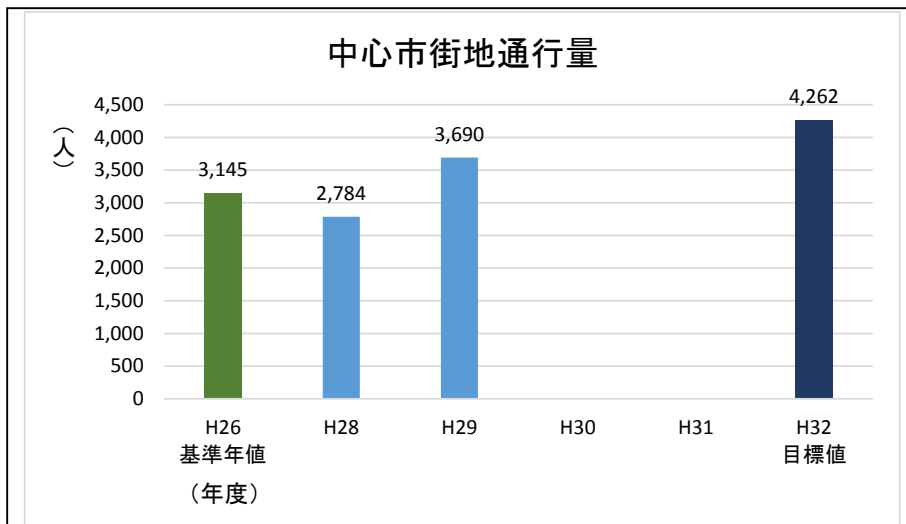
また施設の魅力向上のためのソフト事業実施について協議を進める。併せて中心市街地周辺観光施設からの回遊を促すため、道の駅等との連携を図る。

また全国屈指のポップ生産地として行政、企業、農業者、住民が協働で行うまちづくりを行い、PR イベントを本庁舎周辺の施設・公園機能や店舗との連携を図りながら実施することにより、回遊性の向上を目指す。

また、指標に関連する施設に地元産食材を使用したこだわりのある地元飲食店をテナントとして出店し、観光客だけでなく地域住民で日常的ににぎわう場として実績につなげていくほか、従来開催のイベントに関しても内容を見直しするなど、集客の図れる取組みにするよう運営協議する。

「中心市街地通行量」※目標設定の考え方基本計画 P75～P75 参照

●調査結果の推移



年	通行量 (人)
H26	3,145 (基準年値)
H28	2,784
H29	3,690
H30	—
H31	—
H32	4,262 (目標値)

※調査方法：市街地5地点の通行量、休日・平日の平均値を集計

※調査月：毎年9月上旬（休日・平日各1日）

※調査主体：遠野商工会

※調査対象：バイク、自転車、歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

④. 本庁舎整備事業（遠野市）

事業完了時期	平成26年度～平成29年度【済】
事業概要	東日本大震災により全壊した本庁舎を、中心市街地の核とするため、ショッピングセンターとびあとの複合施設として整備し、市民の利便性向上とまちなかの賑わい創出を図る。
事業効果及び進捗状況	建設地内の物件移転と地下工事の際の湧水処理の影響により工期延長し、平成29年9月に供用開始した。ショッピングセンターとの複合施設である利点を活かし、市民協働と交流の拠点とする市民スペースやフレキシブル執務スペースを設置、内外装へ地場産材を使用し街並と調和する景観整備により、まちなかの賑わい創出と活性化の核としての機能を強化している。

①まちづくりポイントカードシステム導入事業（遠野すずらん振興協同組合）

事業完了時期	平成28年度～平成31年度【実施中】
事業概要	中心市街地の小売店の大半が加入しているポイントカード「スキップカード」を中心市街地の回遊性を高めるツールとするため、多機能化及び公共・観光施設等との多事業連携を図る。

事業効果及び進捗状況	福祉部門における健康づくり事業との連携が先行実施され、今後事業実施に応用が期待できる。図書館利用、トレーニングルーム利用、消防団活動等の行政と連携したポイント付与やマイナンバーカードの機能利用検討に際して、組合独自で他自治体の事例について研修を行うなど検討を進めている。今後はカードの特長の重点について組合内で議論の集約を図っていく。
------------	---

⑤. 子育て支援環境整備事業（遠野市）

事業完了時期	平成 30 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	「元気わらすっこセンター」としてリニューアルし活用している市役所西館周辺を子育て支援エリアとして整備し、子育て支援機能の強化と多機能屋内遊戯施設、屋根付き広場等を設置する。
事業効果及び進捗状況	「子育てするなら遠野」を市の重要施策として取り組んでおり、子育て世代の支援施設として整備に向け関係機関と検討。平成 30 年度のオープンを目指している。

⑥. 公営住宅等整備事業（穀町地区）（遠野市）

事業完了時期	平成 29 年度～平成 31 年度【実施中】
事業概要	郊外部に立地している老朽化した公営住宅を再編・集約整備するものとして、市民等が安心して暮らせる公営住宅を中心市街地エリア内に整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 29 年度に災害公営住宅事業として、東日本大震災により沿岸地域から仮設住宅を建て替える形で整備していく。 整備戸数は 16 戸。2 期に分けて 8 戸ずつ整備する。平成 29 年度基本・実施設計を行い、11 月から建築工事着工し平成 30 年 3 月に第 1 期分が完成。平成 30 年 9 月全戸完成予定。

⑦. 遠野テレビ・インターネットを活用した情報発信事業（遠野市）

事業完了時期	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	商店街の情報を市民に周知することで活性化に結びつけるため遠野テレビ（CATV）を通して市内に情報発信を行うほか、インターネットを活用して市外にも積極的に情報発信する。
事業効果及び進捗状況	市内の約 9 割が加入するケーブルテレビネットワークを活用し、市内の事業者を紹介する番組を制作し放送。毎月 1 回程度の放送により、地元の特徴ある事業所を知る機会の提供と利用を促していく。今後も継続して取り組んでいく。

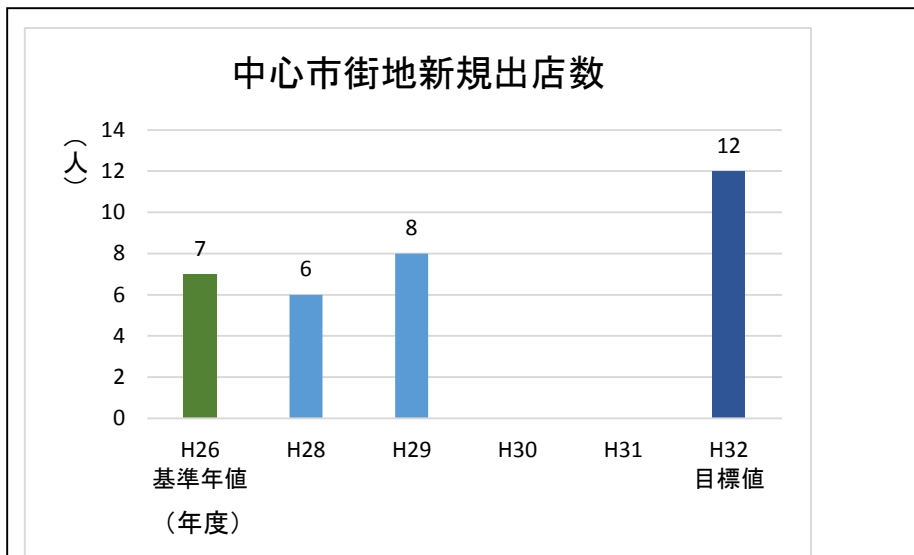
●目標達成の見通し及び今後の対策

「中心市街地の通行量」は、平成 29 年 9 月の市役所本庁舎供用開始により増加傾向がみられる。平成 30 年度には子育て支援環境整備事業が完了予定となっていることから、これら拠点施設間の回遊性向上に取組み、周辺交通量の動向について調査分析を進める。

調査結果は、遠野駅舎周辺整備事業に反映させ、周辺の機能調整によりまちなかの日常的な賑わいの創出を図る。併せて周辺エリアでのイベント事業の実施内容の見直し等を行い指標達成へつなげていくほか、隣接する商業施設において催事スペースの活用に取り組み、集客や売上の増加を図り活性化につなげる。

「中心市街地新規出店数」※目標設定の考え方基本計画 P83 参照

●調査結果の推移



年	出店数 (累計件数)
H26	7 (基準年値)
H28	6
H29	8
H30	—
H31	—
H32	12 (目標値)

※調査方法：現地調査及び創業相談、新規商工会員情報により集計

※調査月：毎年度末

※調査主体：遠野市、遠野商工会

※調査対象：中心市街地計画区域内での新規出店

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

⑧. ファサード改修費助成事業（遠野商工会）

事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の通りの街並みを、町家の風情が感じられるよう景観に配慮して店舗や住宅のファサード改修を行うことで、街並みのイメージアップを図り観光客の増加と回遊を促す。
事業効果及び進捗状況	城下町の面影を残す町並みに配慮した町家風の店舗改修を行う事業者に対して、改修費の助成を行う。平成 23 年度から要綱を制定し、事業者に周知してきた。平成 29 年度は 1 事業者が事業を活用し市街地の景観形成に努めている。今後も周知しながら統一感のある街並みづくりに取り組んでいる。

⑨. 空き店舗家賃助成事業（遠野商工会）

事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の空き店舗への出店に対し家賃の一部を助成し、商業振興とまちなか居住対策を一体的に進める。
事業効果及び	事業者の後継者不足や高齢化に伴い廃業され空き店舗となっている

進捗状況	物件に新規に創業される方を対象に家賃の一部を平成 23 年度から助成している。平成 29 年度には 7 事業者が助成事業を活用した。経済産業省の創業支援計画認定に基づき、行政・商工会・金融機関が連携して、事業計画・資金計画等の基礎知識や創業後の継続相談など創業者を応援する「創業支援塾」とあわせた取り組みにより、新規出店や商店街の活性化につながっている。
⑩. 空き店舗改修費助成事業事業（遠野商工会）	
事業完了時期	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	改修費の一部を助成することで、表が店舗で裏が住居となる建物が多い中心市街地への店舗部分賃借による出店を促し、空き店舗の解消とまちなか居住対策を一体的に進める。
事業効果及び進捗状況	当市において、住宅兼店舗の建物が中心市街地に多く見られることから、商店を廃業しシャッターを下ろしながら住宅部分に住んでいるケースが見られる。居住部分との分離や初期投資となる改修を助成することで新たに出店を応援していく。平成 29 年度は 2 事業者が改修を行い、市街地に創業され中心市街地の活性化が図られた。
●目標達成の見通し及び今後の対策	
「中心市街地への新規出店」については、初年度から順調に推移していることから、当市創業支援計画に基づき、引き続き行政、商工会、金融機関が連携して新規出店者の掘り起しや支援を行い商店街の活性化を図っていく。	
また、新規出店に伴う家賃や改修費用の一部助成制度の活用実績があることから制度を継続して支援していく。	